

# 林業ミニ情報 No.160

令和3年1月

- 1 チップ加工施設の整備について .....1  
(常陸太田林業指導所 水庭)
- 2 ひたち林業探検少年団の取組み（間伐体験） ..... 2  
(常陸太田林業指導所 庄司)
- 3 広葉樹伐採技術向上のための合同研修を実施 ..... 3  
(土浦林業指導所 藤田)

## R2.林業ミニ情報(令和3年1月)

(常陸太田林業指導所 水庭 誼子)

タイトル	チップ加工施設の整備について
年月日	令和2年12月
場所	北茨城市磯原町
内容	<p>大北産業株式会社が林業・木材産業成長産業化促進対策交付金（令和元年度木材利用促進施設整備事業）を活用し、木材処理加工施設（チップ加工施設装置）の整備を行いましたので報告します。</p> <p>上記施設は、北茨城市磯原町の工業団地内にあり、令和2年11月に整備が完了し、翌月12月1日から稼働しています。</p> <p>同社は、現在約9.6千<math>m^3</math>のチップを生産しておりますが、新工場の稼働により、現況の約1.5倍となる14.4千<math>m^3</math>/年の生産を予定しており、原木使用量は15千<math>m^3</math>/年が見込まれております。</p> <p>同社は、国有林を中心に素材生産を行っていますが、平成30年に県の「意欲と能力のある林業経営体」に認定されており、民有林の集約化にも積極的に取り組んでいます。</p> <p>原木の調達は、自社で伐採した材や民間事業者からの買取りを見込んでおりますが、将来、民有林の集約化が進めば、川上側から安定的に木材が供給されることとなり、これまで捨てられてきた未利用材の利用拡大が見込まれます。また、伐採からチップ生産までを一貫して行うことにより、生産コストの更なる削減も見込まれますので、地域材の活用につながることが期待されます。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>チップ工場全景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>チップヤード</p> </div> </div>
今後の期待	<p>チップ生産能力が向上したことで、これまで以上に地域の木材が活用されることが期待されます。</p> <p>当指導所では、引き続き木材利用に関する支援を行ってまいります。</p>



## R2.普及ミニ情報(令和3年1月)

(常陸太田林業指導所 庄司 直人)

タイトル	ひたち林業探検少年団の取組み(間伐体験)
年月日	令和2年12月13日(日)
場所	日立市 助川山市民の森
内容	<p>「ひたち林業探検少年団」は、平成18年度から日立市教育委員会が中心となり行っている「日立市職業探検少年団」の活動の一つです。林業のほか、農業、水産業等、11部門に分かれており、それぞれの職業について1年間、施設見学や体験学習などの活動を行っています。</p> <p>令和2年度の林業探検少年団では、小学1年生から3年生までの13名が団員として活動しています。林業指導所では、指導員として協力しており、令和2年6月の入団式、9月の木工工作(お箸づくり)、10月の森林公園散策、松ぼっくり工作、丸太切り体験に続き、4回目の活動となりました(全体としては7回目)。</p> <p>当日は、間伐の意味や方法についての説明をした後、地元のボランティア団体である助川山保全くらぶの方々を中心として、コナラ林の間伐・枝払いの指導を行いました。また、団員の方は、マンリョウやヒノキの葉等の自然素材をふんだんに使用しながら、各自思い思いのクリスマスリース作りを行いました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>間伐の講話の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>クリスマスリース作り</p> </div> </div>
今後の期待	<p>新型コロナウイルスの影響で、見通しが立たない困難な状況ではありますが、今年度の活動は、残すところあと2回となりました。</p> <p>学校の垣根を越え、それぞれの職業に関する体験の中から、働くことの楽しさや自ら考えることの大切さを学べる貴重な機会であると思います。</p> <p>今年度の活動が無事に終了できることを願いつつ、今後もひたち林業探検少年団への支援を継続し、環境教育に取り組んでいきたいと思えます。</p>

## R2.林業三二情報(令和3年1月)

(土浦林業指導所 藤田 宇侑)

タイトル	広葉樹伐採技術向上のための合同研修を実施
年月日	令和2年12月10日(木)、11日(金)
場所	筑西市松原地内
内容	<p>原木しいたけの出荷制限解除に向けて、県内産の自伐による原木を活用できるようにするため、各指導所員が連携してシイタケ生産の課題解決に取り組むチームシイタケでは、2年前から原木林の調査を進めています。</p> <p>そのため、普及指導員が広葉樹を伐採する機会が増えており、生産者指導の上でも技術の向上が必要となっております。</p> <p>一方で、林業技術センターの普及部門が開催する研修会では、広葉樹伐採を想定した研修を実施しておらず、技術を身につける機会がありませんでした。</p> <p>そこで、筑西市内の所有者に協力を頂き、原木林調査に併せて、筑西林業指導所と合同で、経験のある普及指導員の指導のもと、チルホールを用いた広葉樹伐採とチェーンソーの整備や目立ての研修を行いました。</p> <p>伐倒木は、道路に面しており、道路との境界に設置されたフェンスに近かったため、確実に区域内に伐倒するため、チルホールを使用しました。チルホールは、1.5tと0.75tを使い、最大直径90cmにもなるクヌギとコナラを伐倒しました。</p> <p>6mのロッキーラダー(1本梯子)で地上高8m付近にワイヤーロープをかけ、2人がかりでチルホール使って伐倒しました。テンションのかけ具合とチェーンソーの伐倒速度とのバランスを見ながら、ゆっくりと慎重に倒しました。伐倒した瞬間は、圧巻でした。</p>
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">伐倒作業状況</p>
普及成果	<p>今回の研修により、チルホールを用いた広葉樹の伐倒技術とチェーンソーの目立て技術を向上させることが出来ました。今回の経験を活かし安全に心がけて、引き続き原木林調査や生産者指導を行ってまいります。</p>